

分かる。例えば、だらりと垂れた花弁のものは品種名が「萍水想逢」で水になびく水草のイメージ、花弁がランダムに並んだものは品種名が「墨獅子」で獅子の鬚のイメージとして楽しんでいることが想像できる。

ではどのような形で展示を行ったらしいか。今は、中国と日本の折衷様式がいいと考えている。つまり、①日本式の輪台をつけても品種の持ち味が壊されないものは輪台を用いる、②個々の品種が楽しめる形で、鉢を整然と並べる、③花が小さいものも多いので華やかさを出すために枝数を7本程度に増やす、④日本でも中国でも人気が高い小菊のトピアリーや菊の仕掛けを工夫し、来園者を楽しませると同時に菊や中国にまつわる文化を紹介する（写真1、2参照）。

~~~~~

## ため池南側広場の整備について

永木利夫

ため池南側の広場約600m<sup>2</sup>は、昨年度までため池水利権者の管理用地であったが、この度ため池が買収されたことから当園の管理区域となった。このため、当面ワイルドフラワーのコーナーとして利用することとし、整備を行った。

境界に植栽していたカイズカイブキを撤去し、排水不良が認められたため、暗渠排水管を約7mおきに計4本設置した（図1、2）。幅1.5mの園路を設け、玖谷埋立地からバークチップを譲受け敷き均した。植栽部分は

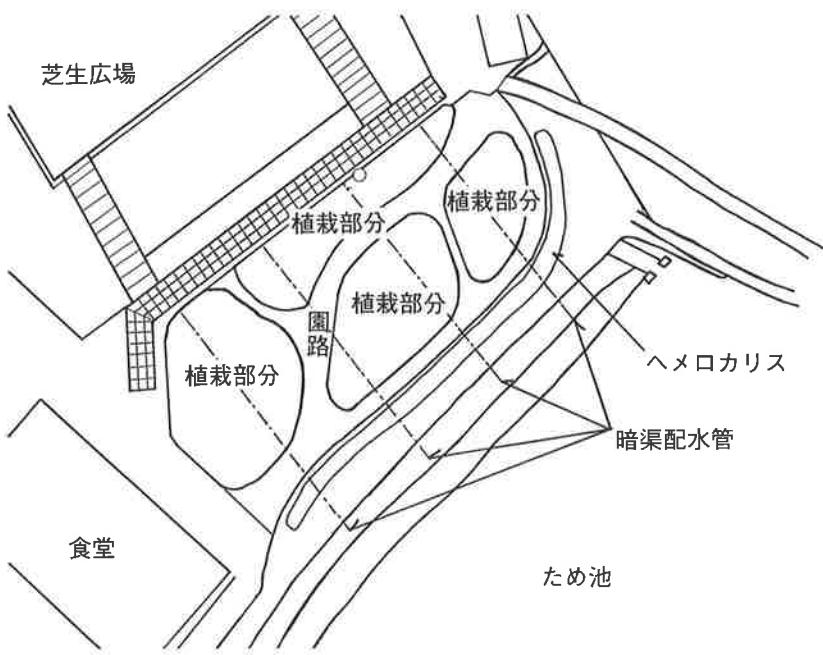


図1 暗渠排水設備設置図

以上のようなことを実践していきたいと考えている。今回、調査した中国菊の茎の長さや花の大きさ、輪台を取り付ける時期などのデータは、その基礎となる。データの信憑性を確認するためにも、この調査は何年か繰り返すことが必要だろう。また、中国菊の「品種の持ち味」を調べるために、次回は花の形態の調査に力を入れてみたい。

パーク堆肥を入れて耕耘した。広場の池に沿った部分（幅1.5m、延長45m、深さ20cm）の土壤は石が多く、植栽に不向きだったので取り除き、大温室、花の進化園の土壤を更新する際に発生する土壤を搬入した。ここには食堂前に植栽されていた、ヘメロカリスの園芸品種75種を移植した。これらの作業は7月下旬から開始し、8月下旬に終了した。

9月上旬にコスモス‘センセイション’の種子1ℓを播種、10月下旬より開花を始め、11月10、11日両日、コスモスの花摘みイベントを行った（写真）。10日は252名、11日は500名の参加があり、好評であった。

今後、草花種子を順次播種する予定である。

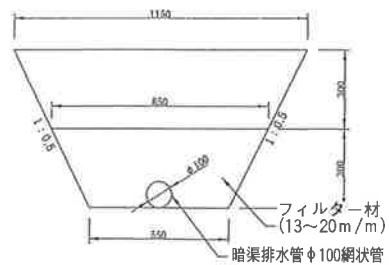


図2 暗渠排水設備平均断面



写真 コスモスの花摘みイベント